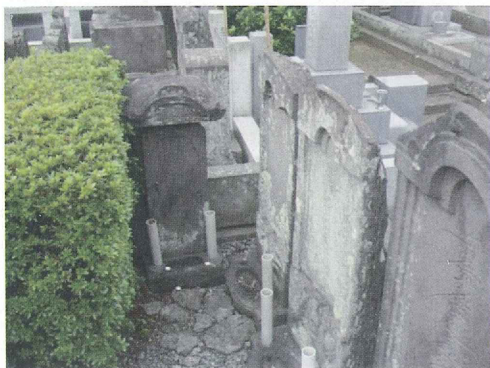


本因坊六世知伯の墓



〔指定年月日〕昭和五九年三月二日
〔種別〕史跡(墓)
〔名称〕本因坊六世知伯の墓
〔点数〕一基
〔所有者等〕個人
〔所在地等〕清水三―五―一〇(妙正寺内)

本因坊六世知伯の墓

高さ八五・五cm、幅二五cmの笠付角柱型の墓である。石質は安山岩である。造立は享保一八年（一七三三）で、銘文は正面に「享保十八年癸丑八月十七日、妙法基所本因坊知伯日遊」と刻み、側面には「施主 井口平蔵 井口久里」とある。知伯は宝永七年（一七一〇）、下井草村の百姓井口半右衛門の次男に生れた。母は本因坊五世道知の姉であった。半右衛門夫婦の結びつきは、半右衛門の本家が本因坊家の役宅があった江戸本所（墨田区）に井草屋という店を構えていた関係から、何らかの由縁が生まれたのではないかと推定されている。

また、知伯と本因坊家の関係は、知伯が生れた翌年に母が没し、知伯は母の実家で養われ五世道知の薫陶をうけたものと思われる。

享保七年（一七二二）、知伯は一三歳で本因坊跡目となり、翌享保八年九月、道知の跡を継いで六世本因坊を名乗り、同年十一月には六段を以て御城碁を勤めている。しかし、享保一八年、わずか二四歳の短い生涯を終えている。この墓は本因坊知伯の出身等の記録を実証する資料として貴重である。

【文化財所在地】

